校長・副校長・教頭先生に役立つ！

すくすく育て いばらきっ子

【発 行 日】 令和元年12月16日
【発 行 者】 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育･家庭教育推進室
電話（029）301-5132

就学前教育･家庭教育推進室だより

高校生のライフデザインセミナー（県少子化対策課との連携事業）

進学や就職等，自分の将来について考える時期でもある「高校生」を対象に，結婚や出産，子育てに関する不安や疑問を取り除き，家庭生活の意義やその生活の在り方を具体的にイメージできるよう，進学・就職後のキャリアプランの一助となるライフデザインの形成を支援しています。

今年度，５月にご応募いただいた高等学校のうち14校で，９～11月に行いました。

◎外部講師による講演・ワークショップ

外部講師として，少子化ジャーナリストの白河桃子氏を各校に招き，将来について考える講演とグループに分かれて，ワークショップを行いました。

大成女子高等学校
江戸崎総合高等学校
東洋大学附属牛久高等学校

自分のできることと，相手ができることを話し合った上で，どう生活していくのかを考えていくことが大切だと思いました。　生徒の感想

◎赤ちゃんふれあい体験

地域の赤ちゃんとその保護者にご協力いただき，出産や子育てについての話を聞くとともに，赤ちゃんとのふれあいにより重みや温もりを感じる授業を行いました。

愛国学園大学附属龍ケ崎高等学校
総和工業高等学校
佐和高等学校
石下紫峰高等学校
水戸女子高等学校
下妻第二高等学校
神栖高等学校
下館第二高等学校
多賀高等学校
竜ヶ崎第一高等学校
岩瀬高等学校

生徒の皆さんに「生まれてきてくれてありがとう」と伝えたいです。
ゲスト（赤ちゃんの保護者）の感想

子育ては大変だという考えでいましたが，楽しいのだということがわかりました。　生徒の感想

♫事業の様子はこちらから♫

事業の様子を「茨城赤ちゃん学校ネットワーク」として，ＨＰ上に動画で紹介しております。
ぜひ，ご覧ください。

茨城県家庭教育を支援するための条例　広報キャラバン

各青少年教育施設や生涯学習センター，県立歴史館，県立図書館等での行事やイベントを回り，広報グッズの配布や広報活動を通して，平成28年12月に公布・施行された「茨城県家庭教育を支援するための条例」の県民への周知及び家庭教育の啓発を図っています。また，「いばらきっ子かるた」の体験も行っています。

「茨城県家庭教育を支援するための条例」は 家庭教育応援ナビ で検索

保護者の方への周知

ふれあちゃんと記念撮影

いばらきっ子かるた体験※

ぬりえ体験

※「いばらきっ子かるた」は，「茨城県教育会（tel029-221-2747）」にて販売しています。県生涯学習課では貸し出しを行っています。

令和元年度
早寝早起き朝ごはん推進校事業

結城市立結城南中学校

独立行政法人国立青少年教育振興機構から委託を受け，調査研究・実践を行っています。今後，取組を県内に広く普及していきます。

各学年フロアにある啓発掲示資料

【テーマ】

結城南中学校　食育・生活習慣改善プロジェクト

【主な取組】

平成27年度より食育指導に力を入れてきましたが，本年度は，基本的生活習慣の更なる向上を目指して，取り組んでいます。生徒自身が「早寝早起き朝ごはん」の大切さを理解し，学業や部活動など自分の目標に向け，睡眠時間や食生活について自己をコントロールしながら生活できることを目指します。

1　資料による啓発活動
（1）　保健指導資料「保健だより」，食育だより「ランチタイム」の作成及び配付
2　食育・保健指導
（1）　養護教諭による学級担任との保健指導の実施
（2）　栄養教諭による給食時の「ワンポイント指導」及び学級活動での指導の実施
3　教科指導との関連
（1）　家庭科におけるつくろう料理コンテスト「Myホリデー朝食メニュー」（県事業）への参加
（2）　美術科における「早寝早起き朝ごはん」推進ポスターの作成
（3）　学級活動における「睡眠の必要性」について科学的に理解するための授業実践。また，家庭での睡眠習慣改善のための取組に向けた目標設定や自己分析のための話合い活動
4　専門家による講演会
（1）　日本体育協会公認スポーツ栄養士　鈴木いづみ先生　「スポーツをする子どもの栄養と食事」
（2）　国立研究開発法人国立・精神神経医療研究センター　吉池卓也先生　「睡眠と健康」
5　睡眠チェックシートを活用した生活習慣実態調査と分析
（1）　生徒一人一人の目標設定と10日間の生活習慣の記録及び振り返り（年間3回）
（2）　「早寝早起き朝ごはん新聞」による生徒，家庭への調査結果報告

全国で取り組まれた内容は，
優れた「早寝早起き朝ごはん」運動　文部科学大臣表彰　で検索

保幼小接続担当者研修（第２・３期）を開催しました

保幼小の連携・接続を進める担当者向けの研修を第１期（６月）に引き続き，第２期（８月）と第３期（11月）に実施しました。

期	テーマ	講師
第２期	特別支援教育の視点から考える保幼小の連携・接続	茨城女子短期大学　梶井正紀　先生
第３期	幼児期の育ちと学びを小学校へとカリキュラムでつなぐ	茨城女子短期大学　助川公継　先生 茨城大学　神永直美　先生

午後のワークショップの様子
（小学校教員と保育者が同じグループで熱心に協議）

参加された皆様が中心となって，各地域で幼児教育と小学校教育の接続に向けた取組が充実されることを期待しています。

研修では参加者の皆様にアンケート調査を実施しました。その中から，２つの結果をご紹介します。１つは，小学校におけるスタートカリキュラム※の実施状況です。学習指導要領の全面実施に向けて，多くの学校でスタートカリキュラムが実施されています。もう１つは，小学校教員の保育参観の状況です。小学校の先生方が保育を見て幼児教育を理解しようという状況が着実に進んできています。

スタートカリキュラムの実施状況
（小学校教員479名，無記名回答）
実施している　**90**％

小学校教員が保育を参観に来たと回答した保育者
（保育者477名，無記名回答）
H30　**53**％　▶　R1　**61**％

※小学校へ入学した児童が，幼児期の遊びや生活を通した学びを基礎として，主体的に自己を発揮し，新しい学校生活を作り出していくためのカリキュラムのこと。